

『大学英語教育学会中国四国支部研究紀要』 発行規程

2003年6月8日制定
2011年6月4日改正
2012年6月9日改正
2015年6月6日改正
2016年9月1日改正

1. (紀要名称) 本誌の名称を下記のとおりとする。
『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』
JACET Chugoku-Shikoku Chapter Research Bulletin (略称 JACET-CSCRB)
2. (発行日程) 本紀要は2004年3月に初号を発行し、以後年刊で発行する。発行までの日程は、原則として下記のとおりとする。
10月末 投稿原稿締め切り
12月末 審査結果通知
1月末 修正原稿締め切り
3月末 刊行
3. (投稿資格) 本紀要への投稿は、所定の学会費を完納した支部会員に限る。ただし委嘱原稿についてはこの限りではない。
4. (紀要構成) 本紀要は下記の内容をもって構成するものとする。
 - (1) 研究論文
 - (2) 実践研究報告
 - (3) 研究ノート
 - (4) 書評
 - (5) 委嘱論文
 - (6) 支部事務局による各種広報
 - (7) その他
5. (本学会発表原稿の扱い) 掲載に当たっては、過去2年以内の JACET 全国大会、中国・四国支部(以下支部)大会、本部もしくは支部の各種主催行事における研究発表・講演・ポスターセッション等に基づく研究論文または実践研究報告を優先するものとする。
6. (論文要件) すべての投稿論文は下記の要件を満たすものとする。
 - (1) 他の印刷媒体(電子版学術誌なども含む)において未発表の論文であること。
 - (2) 投稿時に内容・書式において完全な原稿であること。
 - (3) 英語教育に関連する内容であること。
7. (使用言語) 執筆言語は英語を原則とするが、日本語も可とする。
8. (紀要編集委員会) 支部役員の中から選出された紀要編集委員によって、紀要編集委員会を組織し、委員互選によって委員長を決定する。
9. (審査) 委嘱原稿を除き、全ての投稿原稿の審査は紀要編集委員会が指名する審査委員が担当し、審査委員による査読の結果を踏まえて採用の可否を編集委員会が決定する。ただし、紀要編集委員会委員長が必要と判断した場合は、委員以外の適任者に参考意見を求めることも出来る。
10. (審査結果の通知) 投稿申し込みを受け付けた論文は、紀要編集委員会によって、「A-採用」、「B-修正条件付き採用」、「C-不採用」に分類され、審査終了後速やかに各投稿申し込み者に連絡される。
11. (論文掲載料) 論文の掲載が決まった投稿者は、「執筆要項」に定める掲載料を負担するものとする。
12. (著作権) 本紀要に掲載された論文等の著作権は学会本部に帰属することとし、その取り扱いについては別に定める著作権細則によるものとする。

附則

1. この規定は制定の日から施行する。
2. この改正規定は 2011 年 6 月 4 日から施行する。
3. この改正規定は 2012 年 6 月 9 日から施行する。
4. この改正規定は 2015 年 6 月 6 日から施行する。
5. この改正規定は 2016 年 9 月 1 日から施行する。

『大学英語教育学会中国四国支部研究紀要』 執筆要項

(2016年9月1日中国・四国支部紀要編集委員会にて一部改定)

1. 投稿論文は、A4版の上質紙に高品質印字のプリンタで印刷した完全原稿とし、要旨、図表、参考文献などを含め、完成ページ数で18ページを越えないものとする。執筆要項に従っていない論文は審査の対象とならない。
2. 様式については、以下に従うこと。
 - (1) シングルスペースとし、1ページあたりの設定は、1行が43字（半角86字）を目安とし、35行とする。ただし、表、補遺についてはこの限りではなく、論文本体に整合するよう投稿者が適度に調整することとする。
 - (2) ページ右端のジャスティフィケーションを行う。
 - (3) ページ余白として、上下左右ともに25mmを取る。
 - (4) 本文のフォントについて、英語による論文の場合はTimes New Romanで12ポイント、日本語による論文の場合はMS明朝（英字部分についてはTimes New Roman）で11ポイントとする。ただし、論文題目は、日英とも16ポイント、所属は12ポイント、執筆者氏名は14ポイントとする。
 - (5) ページ番号には算用数字を用い、各ページ下中央に配置する。
 - (6) 英語の論文の場合、ピリオド（文末）の後は半角スペース2つ、カンマの後は半角スペース1つ分空ける。ただし、英文の参考文献については、ピリオドの後も半角スペース1つとする。
 - (7) 日本語の論文の場合は、横書きとし、句点を「。」、読点を「，」に統一する。
 - (8) 論文の第1ページには、論文題目を1～3行目までの中央に、所属および著者名を5～6行目右端に記し、1行空けて要旨を記載すること。なお著書名が複数名に渡る場合は、原則として1行1名とし、最後の著者名から1行空けて要旨を記載する。
 - (9) 要旨における使用言語は、本文が日本語の場合、英語を使用し、本文が英語の場合は、日本語を使用する。
 - (10) 要旨の長さの上限は英語の場合280 words、日本語の場合400文字とする。要旨の両サイドは全角2文字分インデントし、英語の要旨の場合はTimes New Romanで12ポイント、日本語の要旨の場合はMS明朝で11ポイントとする。Abstract（英語の場合。なお日本による場合は「要旨」と記す）には下線を施すこと。
 - (11) 論文中に挿入する図表は、投稿段階ですべて白黒とすること。
 - (12) 上記以外の様式の詳細は支部ホームページにリンクされた見本ファイルを参照すること。
3. 執筆言語が母語でない場合は、母語話者によるチェックを受けること。
4. 論文が英語の場合は日本語の、日本語の場合は英語の要旨を本文前に記述すること。
5. 投稿希望者は、9月30日（必着）までに支部事務局宛に氏名・所属・仮題を届けること。届出には支部サイトの申込フォームを利用すること。仮申込のアドレスは以下のとおり。

<https://ws.formzu.net/fgen/S19653863/>
6. 投稿希望者は、10月31日（必着）までに、下記の(1)(2)を紀要サイトの投稿フォームを通じて提出のこと。締め切りに遅れた論文は、理由にかかわらず審査の対象としない。
 - (1) 投稿フォームのアドレスは以下のとおり。

<https://ws.formzu.net/fgen/S76635936/>
（上記仮申込のアドレスとは異なるので注意）

(2) 上記投稿フォームに必要な情報を記入するとともに、タイトル、氏名、所属名が記入されたオリジナル完成原稿をアップロードする。(図表も本文中に挿入されていること。MS Word 等のワープロ文書と PDF の 2 フォーマットで提出すること。なお、投稿フォームでは 1 つのファイルしか添付されないため、上記 2 フォーマットのファイルを 1 つのフォルダにいれ、ZIP 圧縮しアップロードすること。)

※ファイルを提出後、受領確認のメールが紀要サイトサーバより送付される。

7. 採用決定論文については、1 月 31 日 (必着) までに、完全原稿ファイルを紀要編集委員会宛に提出すること。提出は原則として、完全原稿用の投稿フォームを通じて行う。
8. 論文の掲載に関しては、紀要掲載料 10,000 円を編集委員会に別途定められた方法によって納付すること。
9. 紀要に掲載された論文の著者には、会員に配布される紀要 1 部とは別に紀要 1 部が送られる。抜き刷りに関しては実費を徴収する。

Paper Guideline (English Version): What Paper Contributors Should Know and Follow

マージンは
上下左右、
25mm

← 25mm →
↑ 25mm ↓

論文題目は、1～3行目までの中央に、Times New Roman, 16ポイント、太字で記入。
前置詞、接続詞、冠詞を除く全ての単語を大文字で記す。ただし、4文字以上の語は前置
詞等であっても全て大文字で始める。

要旨は8行目から記述。本文が英語の場合、日本語を使用
(要旨の長さの上限は英語の場合280 words、日本語の場
合400文字)。両サイドを全角2文字分インデントし、MS
明朝体、11ポイントを使用。「要旨」(英語版の場合は
"Abstract" に下線を施すこと。

Taro JACET (Chugoku-Shikoku University)
Hanako EIGO (Daigaku Eigo University)

氏名、所属は、5行目から開始し、Times New Roman, 右寄せ。
氏名は14ポイント、所属は()も含め12ポイント。

要旨 国際社会の多様化に伴い、英語は従来の英米を中心とした母語話者の言
語という概念から、多くの変種を積極的に認めようとする考え方、あるいは
global English, glocal English (Pakir, 2000) のようにより普遍的な捉え方をする研
究者が多くなりつつある。.....

.....
に基づいて先行研究を参照しながら考察を行っている。

1. Introduction

Despite ideological
1990; Phillipson, 1992; Isada, 1990, 1993, 1997), no one would doubt that it dominates
global communication in political, economic, and cultural activities.¹⁾ Over one

billion people in the world are now estimated to have adequate ability to communicate
in English. (ONS) speakers (Honna, 1990; McArthur, 1998)
ally at least until the year 2020 (Graddol,
1997, McArthur, 1998, Smith & Forman, 1997).
ation of a single language, English is no
stic variants have been emerging from
necessarily correspond to those in an NL
red to as 'New Englishes' (e.g., Kachru,
single, double quotation marks は必
ず前が上向き、後が下向きにする。('...
' のようにならないように注意

2. Data Collection Method and Analysis

In order to collect data on speech acts from different English speaking communities,
a questionnaire survey was conducted. We chose this research method since it was
judged to be the most effective way to gather a large amount of data in a short time
and, 1) Apology: You're at your friends' house while you're taking off your
jacket, Oral data were collected from all the participants in a picture description task as
well as in other related task formats before (Test 1) and immediately after (Test 2) the

・本文は、要旨から1行開けて開始。
・見出しは、Times New Roman, 太字。ナンバリングは算用数字を使用。
・小見出しは、1.1, 1.2, 1.2.1 のように数字を増やす。番号付けにはオートコレク
ト(使用ソフトが自動的に番号を増やしていく機能)を使わないこと。Word では、
「ツール」メニューの「オートコレクションオプション」でこれを解除できます。

・行頭にはスペースを要れず、タブキーを使用してインデントすること。

・1ページあたりの設定は：
1行半角86字を目安。
行数は35行を厳守(ページ数は除く)。
・本文は、見出し・図表を含めすべて、Times New Roman,
12 points とする。(ただし図表や特殊な事情のある
場合は、この限りではなく、読みづらくならないよう
投稿者の判断で適度に調整すること。)
・パラグラフの最初は5文字分インデントし、ページ
右端のジャスティフィケーションが行われている
こと。
・提出原稿には、図表も挿入してあること。

注釈番号は上付き文字で)を付ける。

single, double quotation marks は必
ず前が上向き、後が下向きにする。('...
' のようにならないように注意

下部、中央にページ番号。Times
New Roman, 12ポイント。

training program and from the participants of the four E groups 2.5 months after the study reports only the results from the picture description task, in which the participants described a set of 20 pictures (e.g., acupuncturist, porcupine, and Ferris wheel).

句読点は、カンマの後半角スペースひとつ、ピリオドの後2つ。

見出しのサブカテゴリーは、太字にせず、数字は 2.1, 2.1.2 のように増やし、最後の数字の後には「.」を入れない。

2.1 Variables for statistical analysis

The elicited data were analyzed in terms of seven variables including 1) overall message quality (mq: assessed in a 5-point Likert scale by two raters), 2) response time (res: from the moment that a task image appeared on a screen to the time that a test-taker initiated an essential description excluding false starts and filled pauses), Due to space restrictions, the results of the descriptive statistics and statistical tests are shown only in the tables below.

本文の最後の行から1行あけ、Acknowledgement(s), Notes, References, Appendix の順で必要な項目を並べる。項目間は1行あける。見出しはすべて太字。

Notes

1. Despite the obvious limitations of using written DCT data to study sociopragmatic competence that is naturally realized through spoken interaction ...
2. The frequencies in all the tables represent the number of respondents.

References

Crystal, D. (1997). *English as a global language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Faucette, P. (2000). *of training and Studies*, 19(2). [Online] Available at: <http://www.hawaii.edu/sls/uhwpesl>

・参考文献の書式は *Publication Manual of the American Psychological Association*, 最新版に準ずる。(ただし、各レファレンスの2行目以降は半角3文字分下げるとfits
・参考文献箇所のみピリオドの後は半角スペース1個とする。(cf. 本文中はピリオドのあとは半角スペース2つ。)

Kachru, B. B. (1997). Past imperfect: The other side of English in Asia. In L. E. Smith and M. L. Forman (Eds.), *World Englishes 2000* (pp. 68-89). Honolulu, HI: University of Hawai'i.

Robinson, P. (1997). Generalizability and automaticity of second language learning under implicit, incidental, enhanced, and instructed conditions. *Studies in Second Language Acquisition*, 19, 223-247.

Tamai, K. (2002). *Risuninguryoku kouzyoniokeru shadounguno koukanitsuite* [Effect of shadowing training on listening comprehension skills]. *Interpretation Studies*, 2, 178-192.

日本語文献の場合は、まずローマ字でタイトルを記載し、その後に英訳を[]内に添える。

Appendix 1: A complete form of the questionnaire.

論文投稿ガイドライン（日本語版）

規程を守って執筆するための論文テンプレート

マージンは上下左右、25mm

論文題目は、1～3行目までの中央に、16ポイント、MSゴシック体で記入。（太字にしない。）

要旨は8行目から記述。本文が日本語の場合、英語を使用（要旨の長さの上限は英語の場合280 words、日本語の場合400文字）。両サイドを全角2文字分インデントし、Times New Roman, 12ポイントを使用。Abstractには下線を施すこと。

大学 太郎（中国四国大学）
英語 花子（英語教育大学）

氏名、所属は、5行目から開始し、右寄せ、MS明朝体。氏名は14ポイント、所属は（）も含め12ポイント。

Abstract As a result of this unprecedented dissemination of a single language, English is no longer monolithic and numerous sociolinguistic variants have been emerging from different cultural identities which do not necessarily correspond to those in a native language (NL) context. Such new variants are often referred to as 'New Englishes' (e.g., Kachru, 1997; McArthur, 1998; Smith & Forman, 1997).

1. はじめに

応用言語学では、外国語の習得を促進する目的で、英語を第二言語として教授するように行えばよいか、また、その習得を促進する目的で、英語を第二言語として教授してきた（例えば Canele & Swan 1980）。本研究の目的は、これらの議論を理論的に解決するために、どのような実証研究が必要であるかについて考察し、具体的研究モデル

本文は、見出しを含め、要旨から1行空けて開始。見出しは、MSゴシック、11ポイント。ナンバリングは算用数字を使用。小見出しは1.1の1.2.1.1のように数字を増やす。番号付けにはオートコレクト（使用ソフトが自動的に番号を増やしていく機能）を使わないこと。Wordでは、「ツール」メニューの「オートコレクションオプション」でこれを解除できます。

- 1ページあたりの設定は：1行全角43字を目安。行数は35行を厳守（ページ数は除く）。
本文は、見出し・図表を含め、MS明朝（英字部分についてはTimes New Roman）、11ポイントとする。（ただし図表や特殊な事情のある場合は、この限りではなく、読みづらくならないよう投稿者の判断で適度に調整すること。）
パラグラフの最初は5文字分インデントし、ページ右端のジャスティフィケーションが行われていること。
提出原稿には、図表も挿入してあること。

を検証することである（注1）。文法的能力と異なり、正誤の判断を行った言語能力が実際の言語使用に重要であろう（注2）。さらに、これらの能力は、高水準の言語能力を必要とする（Rose & Kasper 2001）。さらに、高水準の言語能力を必要とするにほかならない。注釈番号はカッコ内に上記のように入れる。フォントサイズは8ポイントであることを論

このような最近の研究動向を踏まえ、次章では最初に本研究の研究課題について述べることとする。それに続いて、教材作成の基盤とした実証研究について、实例を挙げながら詳述する。

下部、中央にページ番号。

2. 分析の方針

本研究で実証研究を行う際にまず問題となったのが使用するタスクとデータ収集の方法である。中間言語語用論に関する論文は、特に発話行為に焦点を当てた異文化間比較による実証研究は数多く行われているものの、...

小見出しは半角文字使用。

2.1 大学英語教育の展望

句読点は、「,」に統一。

大学教育における遠隔教育は回線や設備の整備とともにカリキュラム化されているケースが多くなっている。こうした大学の遠隔教育は単に大学間の連携だけでなく、生涯教育等地域貢献として期待度が高まっている。特に高大連携など初等中等教育機関との連携を視野に入れた取り組みが重要視されるようになってきた。こうした校種や機関をまたがる教育スタイルが奨励されつつも、現実には形式的な議論を経て、出張講義や講演会を実施するものや単位互換や高大連携用の授業公開に留まるものが多い。それは、学校間の時間的、地理的、制度上の制約が容易には解決できないからである。

こうした問題を少しでも解消し、かつ遠隔を応用し新しい教育のあり方を模索する一環として、著者らは従来 CSI で取り組んできた遠隔交流等の研究してきた。

本文の最後の行から1行あけ、謝辞、注釈、参考文献、付録の順で必要な項目を並べる。項目間は1行あける。見出しはすべてMSゴシック。

謝辞

本研究に際しては、JACET 大学の英語教育先生をはじめ、被験者として多くの学生の皆さんにご協力いただきました。また JACET 大学から研究助成を

注

- 1 しかし、本研究は理論的基盤を構築することが目的であり、方法論や教材作成の是非を問題としているわけではない。
- 2 これに対して、Rose & Kasper (2001) はさらに次のような問題を指摘している。...

定期刊物は誌名の後に、をして号数を記し、誌名と号数はイタリック。

参考文献

Cohen, A. D. (1998). *Strategies in learning and using a second language*. London, UK: Longman.

Hirano, K. (1987). Japanese students' use of communication strategies in written production. *JACET Bulletin*, 18, 49-69.

巻(号)となっている定期刊物は誌名と巻数のみイタリック。

Klimoski, R., & Palmer, S. (1993). The ADA and the hiring process in organization. *Consulting Psychology Journal: Practice and Research*, 45(2), 10-36.

小林俊一郎, 猿渡香奈子, 蔵元昭二, 中森孝一, 鶴田雅子, 川上隆博, 折田充. (1996). 「中・高連携の視点からみた, コミュニケーションの方略的能力の育成」 『STEP

Bulletin』 8, 55-65.

高島英幸編著. (2000). 『英語のタスク活動と文法指導』. 東京：大修館書店.

英語文献は、英語論文の参考文献の書き方と同等。参考文献が日本語の場合は、フォントは本文と同じように明朝体、11ポイントひとつの文献が2行以上に及ぶときは、2行目以降を全角1字分下げる。なお、英語文献・日本語文献（50音順）の順番でまとめて記載する。

基本の記載方法（イタリックにすべき項目はイタリックで記載している。）

詳細は APA 論文作成マニュアルの最新版を参照のこと。

【定期刊行物】

著者名, A.A., 著者名, B.B., & 著者名, C.C. (2011). 論文タイトル. 定期刊行物の名称, xx, xxx-xxx.

【非定期刊行物】

著者名, A.A. (2011). 著作物のタイトル. 出版地：出版社.

【非定期刊行物の一部（書籍中のある章など）】

著者名, A.A., 著者名, B.B., & 著者名, C.C. (2011). 章のタイトル. In 編者名 A, 編者名 B, & 編者名 C (Eds.), 書籍のタイトル(pp.xxx-xxx). 出版地：出版社.

特に留意して頂きたい点

1. 引用方法

例 1. Takahashi (1995a) reports that much motivational effect was observed, but no statistical data on learners' listening ability were revealed (p.28).

ピリオドの位置に注意。()の後。

例 2. Much motivational effect was observed, but no statistical data on learners' listening ability were revealed (Takahashi, 1995a, p.28).

例 3. As is acknowledged by many researchers (e.g., Kobayashi, 1998; McConnell, 2000), Japan...

2人目以降を挙げる場合はセミコロンで区切る。

2. 参考文献

オンライン情報（詳細は『APA 論文作成マニュアル』 p.190 参照）

Electronic reference formats recommended by the American Psychological Association. (2000, October 12). Retrieved October 23, 2000, from <http://www.apa.org/journals/web/rf.html>

未出版の学位論文

インターネットアドレスで終わる場合ピリオドなし。それ以外は必要。

Frazer, J. (2004). *WebQuest design strategies: A case study measuring the effect of jigsaw method on students' personal agency beliefs, engagement, and learning*. Unpublished Doctoral Dissertation, San Diego State University.

映画 DVD

Scorsese, M. (Producer), & Lonergan, K. (Writer/Director). (2000). *You can count on me* [Motion picture]. United States: Paramount Pictures.

映画会社名とその映画が作られた国名を記す。国名と映画会社名はコロンで区切る。(日本語版ではピリオドとなっているが、最新6版に統一してコロンとする。)

映画タイトル(イタリック)の直後に[Motion picture]として映画であることを明示する。ピリオドは[Motion picture]の後につける。

3. 論文タイトル（英文）について

前置詞、接続詞、冠詞を除くすべての単語を大文字で記す。ただし、4文字以上の語は前置詞等であってもすべて大文字で始める。（『APA論文作成マニュアル』p.88）

Ex.) The Relationship Between Snacking and Metabolic Syndrome

ただし、参考文献に挙げる場合は最初の単語のみ大文字とする。

4文字以上なので大文字

4. 表・図のタイトル

和文・英文ともに、表の場合タイトルは表の上、図の場合タイトルは図の下。英文の場合のみ、タイトルはイタリックとする。

【和文】

(例) 左寄せ、MSゴシック

表 1. 動機づけとの相関関係

表

【英文】

Table 10.

Background Information of the Parent Participation

Table

【和文】

(例)

表

図 1. 動機づけとの相関関係

【英文】

Figure

Figure 10.

Background Information of the Parent Participation